【練馬支部】 春の拡大月間2022 総括

**１．“春の拡大月間”コロナ禍のなかでも ２年連続“全分会目標達成”の快挙。1/1現勢を回復！**

**（１）春の拡大月間の運動総括**

４月２日の支部定期大会後から始まった“春の拡大月間”は、支部・本部の3.5％拡大目標（235人）を30人超過、そして２年連続となる「全分会目標達成」で５月31日に幕を閉じ、コロナ禍のなかでも“できること”で奮闘された皆さんの行動が大きな成果に結びつきました。

5月31日の臨時登録で6月当初人員は6706人となり、１月１日現勢6695人を11人上回り回復しました。

この「春の拡大月間」は、３月の分会総会後の取り組みとなり、単に組織人員を増やすだけでなく、安定した分会運営を図る組織強化の点からも、分会新体制での運動となりました。今回の春の拡大月間では「事業復活支援金」の組合への申請相談を、群会議や行動日での仲間との対話のほか、ＤＭ送付（事業所/個人）」、「群の仲間」、「けんせつ北部」とあらゆる手段で呼びかけ、いまだ続くコロナ禍での仲間のくらしと仕事に寄り添った取り組みとなりました。

この呼びかけから、支部事務所では４月から5月にかけて約200件の「事業復活支援金」の相談対応につながりました。コロナ禍３年目、これまでの分会センターや訪問行動時の飛沫防止対策の継続、組合員訪問時の配慮など、各分会での工夫や努力から２か月の拡大集中月間を無事に乗り切ることができました。そして奮闘された皆さんの行動が大きな成果となり、春の拡大月間では２年連続となる「全分会拡大目標達成」という快挙を成し遂げ、ゴールを迎えることができました。

○拡大目標･･･支部・本部ともに月間3.5％、235人

○加入成果 ＊対支部目標･･･成果265人（拡大率3.95％） 30人超過

＊対本部目標･･･成果275人（拡大率4.10％） 40人超過

○目標達成分会 ･･･全28分会

○節目標賞（4月28日終了時で40％達成）

達成･･･北練馬・豊玉・高松・貫井・学園・石神井台・北事業所・谷原台・

新大泉・早宮・北大泉・南事業所 分会（12分会）

○女性の会セット加入･･･３人（春日・土支田・北大泉分会で各１人）

○東京土建健診体験キャンペーン･･･48人（前年春：90人）

○個人事業者応援キャンペーン･･･16人（前年春：８人）

**（２）成果の特徴、取り組み**

【成果の特徴】としては、事業所入職関連が約６割、約４割が個人事業者で土建国保や労働保険の制度利用が主な加入理由となっています。事業所入職に関しては、①昨年秋に比べ、コロナの影響で入国足止めとなっていた技能実習生をはじめ、外国人労働者の入職が昨年秋６人→この春21人と3.5倍増えた、②分会内事業所から入職による５人以上の加入が複数みられた（地域分会・事業所分会問わず）一方で、「新入職者がいない・見つからない」といった事業所もあるなど、コロナ禍を含むさまざまな要因で大きく分かれている現状があらわれています。

個人では、“仲間が仲間を紹介する”加入や、分会内事業所からの下請・外注の組合未加入者の紹介もみられました。「個人事業者応援キャンペーン」（対象：組合と一人親方労災の同時加入）も昨年春が８人適用だったのにくらべ、この春は16人適用と倍増となりました。

上石神井分会では、脱退した元組合員の方への訪問にも取り組み、コロナ禍での状況や事業復活支援金の申請相談はしたか等の、声かけ・対話が行われました。谷原台分会では、今年度から「分会事業所対策委員」に選出された分会内事業所への昼間行動での訪問で「頼りになる東京土建にぜひ加入させたい」と外注３人の加入に結びつき、分会目標を超過で達成しました。新大泉分会では、独立した個人事業者が組合内事業所で働く知人からの紹介により、土建国保、一人親方労災と併せての組合加入となりました。

【取り組み】では、各分会での群会議や夜間統一行動、昼間行動で「事業復活支援金」のほか、女性の会による事業所電話かけでのコロナ禍の影響についてをメインに聞き取りし、シニア友の会・女性の会による「現場宣伝行動」では区内21件の現場を訪問し組合をアピールしました。

桜台分会では、組合外への活動の必要性を重視し、分会センター前でのウクライナ共和国への募金活動を行い、センター周辺の地域の皆さんに“東京土建が何をやっているのか”を知ってもらうアピールの場となりました。旭町光が丘分会では、「分会対抗ソフトボール大会」にむけた群会議や行動日での参加呼びかけから、組合活動初参加の6人を含む14人の仲間でサークルを結成、ソフトボール交流会が行われ、呼びかけからさまざまな世代の参加者確保と交流につながりました。

今回の「春の拡大月間」では、豊玉分会のように対話がきっかけで「事業復活支援金」を組合に相談、申請に至った経緯から、分会センターに顔を出す仲間が増え、仲間に寄り添った取り組みから「組合でこういう相談ができるんだから組合費が高いとは言えないね」と感想がでるなど、「頼れる組合」の存在を知ってもらうことができました。また「支部のバスレクでは事業所全員は参加できないから分会でレクをやってほしい」と仲間の再結集、組織強化につながる教訓が生まれました。